

菊池隆さん

⑤

陸前高田市の自宅が津波に襲われて住めなくなり、菊池隆さん夫妻は3月22日から釜石市にある県職員用の単身赴任公舎で暮らし始めた。

やらなければならぬ業務は山積していた。菊池さんは2011年の秋まで、土日でも当番制で出勤した。職員としての最後の1年



平田総合公園に整備された平田第6仮設団地＝釜石市、菊池隆さん撮影

県庁退職、釜石の仮設入居

はあつという間に過ぎていった。「予想もしていないことが起こりうるのだ」と思う一方、「震災津波に負けてたまるか」との思いも芽生え、それが毎日の支えにもなっていた。

菊池さんは翌12年3月、42年間勤めた県庁を退職した。春からの第二の人生は、釜石市の平田第6仮設団地に定めた。仕事が忙しく自宅があった陸前高田までなかなか帰れなかったし、釜石は商店や医療機関が再開するなど復興の進み具合が早かった。

木造の応急仮設住宅は240戸、450人が住む大規模団地だった。釜石だけでなく、大槌町や山田町などから家を失った人たちが集まっていた。2Kの間取り、29平方メートルの小さな住まいに妻と2人。経験のない「仮設暮らし」が始まった。

(斎藤徹)